

家城駅事故・速度計誤表示問題を 中部運輸局に訴える！！

名古屋地本は6月18日、国土交通省中部運輸局にJR東海の営利優先・安全軽視の是正を求めて、①名松線家城駅無人列車逸走事故について②119系車両速度計異常表示について要請行動を行いました。伊勢運輸区分会、豊橋運輸区分会の代表を中心に職場の生の声を訴えました。

①列車逸走事故については、『エアーが長時間抜けないように機密性を高める』『車両が逸走しないように安全側線の設置やレベルにする等の駅構内の改良』などの本質的対策が施されていないことを訴えました。飯田副会長は、「より細かく勤務実態を把握するため」との目的で名松線固定組が編成されることに対して、実際には運転士の注意力のみに頼るもの、対策と責任を運転士に押し付けものであり、社員管理、労務管理が強化され、プレッシャーがかかるなど職場の実情を明らかにしました。

②119系車両の速度計の異常表示では、三度にわたる速度計の異常表示に関する東海労の原因究明や車両交換、体感運転中止の申し入れに対する会社の不誠実な態度を明らかにしました。特に中部天竜駅まで約60Km区間を体感運転を強いられた仲田分会長は、ポイントやカーブ制限が大変多い中での体感運転の過酷さを訴え、体感運転の中止を強く要請しました。

この私たちの訴えに中部運輸局鉄道部監理課、安全指導課の課長・課長代理は真剣に耳傾けてくれました。最後に運輸局課長は、「家城駅の列車逸走事故、三回目はあってはならないという認識で運輸局も取り組んできた。今後も安全確立のために取り組んでいく。これからも現場の意見を聞かせてほしい。今日の申し入れについては会社にも伝える」と私たちの要請行動に応じてくれました。



JR東海労は、会社の営利優先、安全軽視を止めさせ、安全確立のためにさらに全力で闘っていきます。